

平成 30 年 7 月 27 日

山形県病院薬剤師会  
会長 羽太 光範 様

一般社団法人 薬学教育協議会  
病院・薬局実務実習東北地区調整機構  
委員長 小笠原 恵子  
(公印省略)

改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習の先行導入実施について  
(お願い)

時下 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、当地区調整機構の事業運営に格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた平成 31 年度からの実務実習の円滑な実施に向けて、各大学や実習施設等において準備をすすめていただいているところでございます。

実務実習先行導入（トライアル）についても、東北調整機構総会（4 月 22 日開催）決定事項に基づいて第 1 期より開始していただくことにしておりましたが、各大学及び各地区に温度差があり、未だ十分では無いことがわかりました。

そこで病院・薬局・大学の共通認識を図りながら、改訂コア・カリキュラム実務実習のスムーズな導入ならびに運用上の最終的な問題点の抽出のために、第 2 期・3 期における「東北地区における実務実習先行導入（トライアル）の実施」にぜひともご協力をお願い申し上げます。

事務局：(一社)青森県薬剤師会 事務局  
事務局長 佐々木誠志、担当者 佐藤優子  
〒030-0961 青森市浪打 1-16-17  
tel:017-742-8821 fax:017-743-4452

平成30年度 東北地区における実務実習先行導入（トライアル）の実施方法について  
病院薬局実務実習東北地区調整機構  
平成30年4月22日決定事項に基づく

【1】 目的

改訂コア・カリキュラム実務実習のスムーズな導入ならびに運用上の最終的な問題点の抽出。

【2】 概要

平成30年度の実務実習と並行して、改定コアカリ版概略評価表を用いた評価を行う。実習終了後は結果（Excel表）を調査実施窓口に返信し、各大学で結果を解析し、まとめたものを各実習施設にフィードバックする。

【3】 方法

a. 対象： 東北地区の薬系6大学の学生の実務実習受け入れ施設全て

b. 範囲： 平成30年度の実習期間に実施していただく

c. 実施方法（別紙：概略評価表を参照）

① 評価回数は、概略評価の各項目について少なくとも3回とする

② 評価時期は、第4週、第8週、最終週の3回を基本とする。ただし追加で評価回数を増やしても良い。

d. 評価項目

大項目の(1)～(3)について各々1項目以上選択すること（(1)②臨床の心得は必須）。

実務実習評価項目（表1）のうち概略評価（いわゆるルーブリック）に該当する10項目（表中★が付いたもの）の中から大項目毎にそれぞれ1項目以上について評価する。

その際、評価基準 別添 PDF ファイル「改定コア・カリキュラム薬学臨床（F領域）のSBOsおよび実務実習概略評価表」を用いて評価する。

● 薬局実習は、「日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示【緑表】」を使用（上段）

◇「薬局実務実習指導の手引き2018年版」

● 病院実習は、「日病薬評価基準を参照した病院実務実習例示【赤表】」を使用（下段）

e. 評価結果について

① 評価結果は、別添のエクセル表「改訂コアカリ実務実習トライアル結果（○○○○）」に入力してください。

② 実習終了後、各大学へ評価結果をお送り下さい。その際、ファイル名（○○○○）のところに必ず御施設名を記入して下さい。

f. 学生へのフィードバックについて

表2に評価基準の目安を示してあります。薬局、病院11週間の実習でそれぞれの第3段階を目指してご指導をお願いします。実習期間中に第3段階に到達した学生には、さらにその上を目指すご指導をお願いします。

表 1 実務実習評価項目

大項目	中項目	評価法
(1) 薬学臨床の基礎	① (早期臨床体験) ②臨床の心構え★ ③ (臨床実習の基礎)	左列で、★はループリックがある項目。  ( )内の項目は単独のループリックは無く、他の項目に含まれる。
(2) 処方箋に基づく調剤	① (法令規則等の理解と遵守) ②処方監査と疑義照会★ ③処方せんに基づく医薬品の調製 ★ ④患者・来局者対応、情報提供・教育★ ⑤医薬品の供給と管理★ ⑥安全管理★ <病院は⑥安全管理/⑦感染管理>	
(3) 薬物療法の実践	①患者情報の把握★ ②医薬品情報の収集と評価・活用★ ③処方設計と薬物療法の実践 (処方設計と提案) ★ ④処方設計と薬物療法の実践 (効果と副作用の評価) ★	

表 2 東北調整機構実務実習の評価基準の目安

	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
基準	薬剤師の目指すべき使命を実現できる段階。  薬剤師になってからの将来的な目標	薬剤師として医療現場で働くことができる基礎を身に付けた段階。 実習中に到達を目指す基本。	実習開始から8週間程度かけて到達するライン。	大学での学習を確認し、医療現場で指導薬剤師の指導の下、実際に患者に対応ができる段階。 実習開始から4週間程度かけて到達するライン。

東北地区における実務実習先行導入(トライアル) 概略評価記入表

学生名		大学名	
-----	--	-----	--

施設名		病院・薬局
-----	--	-------

評価者	
-----	--

評価項目		評価点 (0~4)を入力												
		評価日	(1週)	(2週)	(3週)	第1回 (4週)	(5週)	(6週)	(7週)	第2回 (8週)	(9週)	(10週)	第3回 (11週)	
			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
大項目	観点													
(1) 薬学臨床の基礎	②生命の尊厳と薬剤師の社会的使命及び社会的責任													
(2) 処方せんに基づく調剤	②処方監査と疑義照会★													
	③処方せんに基づく医薬品の調製 ★													
	④患者・来局者対応、情報提供・教育★													
	⑤医薬品の供給と管理★													
	⑥安全管理★													
(3) 薬物療法の実践	①患者情報の把握★													
	②医薬品情報の収集と評価・活用★													
	③薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決★													
	④薬物療法の効果と副作用モニタリング★													

フリーコメント

保存版

改訂コア・カリキュラム

# 薬学臨床（F領域）のSBOsおよび 実務実習概略評価表

東北6県の薬局・病院・大学共通

表 1 実務実習評価項目

大項目	中項目	評価法
(1) 薬学臨床の基礎	① (早期臨床体験) ② 臨床の心構え★ ③ (臨床実習の基礎)	左列で、★は ルーブリック がある項目。  ( ) 内の項 目は単独の ルーブリック は無く、他の 項目に含まれ る。
(2) 処方箋に基づく調剤	① (法令規則等の理解と遵守) ② 処方監査と疑義照会★ ③ 処方せんに基づく医薬品の調製 ★ ④ 患者・来局者対応、情報提供・教育★ ⑤ 医薬品の供給と管理★ ⑥ 安全管理★ 《病院は⑥安全管理／⑦感染管理》	
(3) 薬物療法の実践	① 患者情報の把握★ ② 医薬品情報の収集と評価・活用★ ③ 処方設計と薬物療法の実践 (処方設計と提案) ★ ④ 処方設計と薬物療法の実践 (効果と副作用の評価) ★	

# 薬学臨床(F領域)のSBOsおよび実務実習概略評価表

## F 薬学臨床

GIO 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

※F薬学臨床における代表的な疾患は、がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症とする。病院・薬局の実務実習においては、これら疾患を持つ患者の薬物治療に継続的に広く関わること。

※前)：病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項

### (1) 薬学臨床の基礎

GIO 医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

#### 【①早期臨床体験】※原則として2年次修了までに学習する事項

SBO番号	内容	実施内容(例示)			概略評価表(例示)								
		大 学	薬 局	病 院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階			
SBOs885	1 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	◎	○	○									
SBOs886	2 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)	◎	○	○				—					
SBOs887	3 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)	◎											

#### 【②臨床における心構え】[A(1)、(2)参照]

SBO番号	内容	実施内容(例示)			概略評価表(例示)							
		大 学	薬 局	病 院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階		
SBOs888	1 前)医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)	◎										
SBOs889	2 前)患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)	◎						—				
SBOs890	3 前)患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)	◎										
SBOs891	4 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)		◎	◎		生命の尊厳と薬剤師の社会的使命及び社会的責任	生命の尊厳と薬剤師の社会的使命を自覚し、倫理的行動をする。	患者・生活者に寄り添い、患者・生活者の利益と安全を最優先して行動する。	患者・生活者の視点に立つ。日常の学びを振り返り記録し、省察する。	生命の尊厳を意識し、他者の人権を尊重する。	薬剤師としての義務及び個人情報保護に関して留意している。	
SBOs892	5 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)		◎	◎			医療関係法規を遵守して、薬剤師としての責任を自覚する。	医療の中で薬剤師に求められる責任を自覚し、自らを律して行動する。さらなる患者ケアの向上に向けた自己啓発を行う。				
SBOs893	6 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)		◎	◎								
SBOs894	7 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)		◎	◎								

【③臨床実習の基礎】

		実施内容(例示)			概略評価表(例示)						
		大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階	
SBOs895	1	前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。	◎	◎	◎						
SBOs896	2	前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。	◎	◎	◎						
SBOs897	3	前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。	◎	◎	◎						
SBOs898	4	前) 病院に所属する医療スタッフの職種名列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。	◎	◎	◎						
SBOs899	5	前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。(B(3)①参照)	◎	◎	◎						
SBOs900	6	病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。		◎							
SBOs901	7	代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。		◎							
SBOs902	8	入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)		◎							
SBOs903	9	急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。		◎							
SBOs904	10	周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。		◎							
SBOs905	11	終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。	○	◎							
SBOs906	12	外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。		△	◎						
SBOs907	13	保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。	◎	◎							
SBOs908	14	薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。		◎							
SBOs909	15	来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)		◎							

(1)、(2)、及び(3)の他の領域の評価に含まれる。

(2) 処方せんに基づく調剤

GIO 処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。

【①法令・規則等の理解と遵守】[B(2)、(3)参照]

実施内容(例示)					概略評価表(例示)						
大学	薬局	病院	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SBOe910	◎		前) 調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。								
SBOe911		◎	調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)								
SBOe912		◎	法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)								
SBOe913		◎	保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。								
						(1)の領域の評価に含まれる					
						(2)、(3)の他の領域の評価に含まれる					

【②処方せんと疑義照会】

実施内容(例示)					概略評価表(例示)						
大学	薬局	病院	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SBOe914	◎		前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。								
SBOe915		◎	前) 処方オーダリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。								
SBOe916		◎	前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。								
SBOe917		◎	前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。								
SBOe918		◎	前) 処方せんに監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。								
SBOe919		◎	前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)								
SBOe920		◎	処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)			処方監査と疑義照会	処方監査と疑義照会を実践する。	患者個々の薬物療法におけるアウトカムを患者及び医療提供者と共有し、病状の経過・生活環境・ナラティブを考慮して、患者に提供される薬物療法の妥当性・適切性を判断する。	患者情報と薬学的知見を統合し、患者の薬物療法のアウトカムに照らし、処方方の妥当性、適切性を判断する。	患者情報と処方されている医薬品情報の基本的な医薬品情報に基づき、処方方の妥当性を判断する。疑義照会の必要性に気づき、実践する。	患者情報に基づき、処方せんの不備・不適切な点があれば指摘する。指摘した内容について疑義照会をし、その内容を適切に記録する。
SBOe921		△	注射薬処方せんの記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)				処方監査：患者情報と医薬品情報に基づき、処方方の妥当性、適切性を判断する。	患者に提供される薬物療法の妥当性・適切性を的確に判断する。薬物療法におけるアウトカムを達成するために、疑義照会を行い医師の処方行動に変容をもたらす。	必要に応じて、疑義照会を適切に行うと共に、チーム内で情報を共有する。		※患者情報は、(2)④患者応対及び(3)①患者情報の把握に基づく
SBOe922		◎	処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)				疑義照会：必要に応じて、疑義照会の必要性を判断し、適切なコミュニケーションのもと実施し、記録し、次に活かす。最終的には、医師の処方行動に変容をもたらす。				
SBOe923		◎	薬歴、診療録、患者の状態から処方妥当であるか判断できる。(知識・技能)				調剤業務の中で、薬歴やお薬手帳、患者への問診などから判断して、適切でないと思われる処方について疑義照会を体験する。				
SBOe924		◎	薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)				調剤業務の中で、診療録(カルテ等)、患者への問診等から判断して、適切でないと思われる処方について疑義照会を体験する。				

日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示

<p>処方監査と疑義照会 B</p>		<p>患者の病態およびナラティブ、治療の科学的根拠に基づいて、処方の妥当性を判断する。</p>	<p>医薬品情報および患者情報をもとに、処方内容を監査する。医師や医療スタッフと患者に関する情報を共有(疑義照会を含む)する。</p>	<p>実習施設内で扱うすべての処方箋と調剤薬に関して医薬品情報を基に適切に監査ができ、必要に応じて疑義照会を実施する。</p>	<p>単純な処方箋(※参照)および調剤薬の監査を行い、リスク回避のための対応方法を実施する。  ※①処方内容を構成する医薬品の数が2~3種類と少ない処方、②1つの疾患に対する処方</p>
<p>処方監査と疑義照会</p>	<p>処方監査と疑義照会を実践する。  処方監査:患者情報と医薬品情報に基づき、処方の妥当性、適切性を判断する。  疑義照会:必要に応じて、疑義照会の必要性を判断し、適切なコミュニケーションのもと実施し、記録し、次に活かす。最終的には、医師の処方行動に変容をもたらす。</p>	<p>明らかな疑義が無くても患者情報などを判断し、より良い処方を提案する。</p>	<p>患者情報や医薬品の情報を考慮して疑義照会を適切に行い、代替案を提示する。</p>	<p>医薬品の基本的な情報に基づき、処方に対する疑義の有無を判断する。  ※患者情報とは、④患者応対及び③薬物療法の実践①患者情報の把握に基づく  ※医薬品情報とは、③薬物療法の実践②医薬品情報の収集と活用に基づく</p>	<p>処方箋の形式上の不備が無い確認し、処方箋に従って調剤する。</p>

日病薬評価基準を参照した病院実務実習評価例示

【③処方せんに基づく医薬品の調製】

		実施内容(例示)			概略評価表(例示)					
		大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SBOs925	1 前) 薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)	◎								
SBOs926	2 前) 主な医薬品の成分(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。	◎								
SBOs927	3 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)	◎								
SBOs928	4 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。	◎								
SBOs929	5 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。	◎								
SBOs930	6 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)	◎								
SBOs931	7 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)	◎								
SBOs932	8 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)	◎								



④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育

		実施内容(例示)			概略評価表(例示)					
		大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SBOs944	1 前)適切な態度で、患者・来局者と対応できる。(態度)	◎								
SBOs945	2 前)妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。	◎								
SBOs946	3 前)患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)	◎								
SBOs947	4 前)患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)	◎								
SBOs948	5 前)代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。	◎								
SBOs949	6 前)患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)	◎								
SBOs950	7 前)薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。	◎								
SBOs951	8 前)代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)	◎								

・模擬患者との対応を通して、以下の事を学習する。  
 ○薬物療法を評価、考慮するために必要な患者情報の聞き取りを行う。  
 ○薬物療法を有効に、安全に実施するための情報提供を行う。  
 ○薬物療法以外の生活指導項目の情報提供を行う。  
 ○薬物療法を有効に、安全に使用するための製剤やデバイスの取扱に関する指導を行う。  
 ○情報を基に評価した内容、提供した情報を模擬診療録に適切に記録する。  
 ・妊婦・授乳婦、小児、高齢者を想定した対応のロールプレイを行う。

SBOs952	9	患者・薬局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)	◎ ◎								
SBOs953	10	患者・薬局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)	◎ ◎								
SBOs954	11	医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)	◎ ◎								
SBOs955	12	患者・薬局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)	◎ ◎								
SBOs956	13	妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)	◎ ◎								
SBOs957	14	お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)	◎ ◎								
SBOs958	15	収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)	◎ ◎								

日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示

患者・薬局者 対応、情報提 供・教育	患者からの情 報収集、情報 提供及び患者 教育を実践す る。	コミュニケーション を通じて患者の信 頼を得て、必要な 患者情報を収集し、 薬物療法に関する 情報提供及び患者 教育を実践する	患者の薬物療法の アウトカムを達成す るために必要な情 報を的確に判断し、 患者から情報収集 する。 患者のニーズを的 確に判断し、それを 盛り込んだ情報提 供及び教育を行う。	患者の病態や状 況、高齢者、妊婦・ 授乳婦、小児、障 害を持った方などに 自然に配慮し、情 報を収集する。 患者の理解度を確 認しながら情報提 供を行う。	患者から薬物治療 に係る基本的な情 報(症状、既往歴、 アレルギー歴、薬 歴、副作用歴、生 活状況等)を収集す る。 医薬品を安全かつ 有効に使用するた めの情報を種々の ツールを用いて患 者に提供する。 指導、教育内容を 適切に記録する。
--------------------------	--	---	---	---	---

日病薬評価基準を参照した病院実務実習評価例示

患者・薬局者 対応、情報提 供、教育 C	患者からの情 報収集、患者 への情報提供 及び教育を実 践する。	患者の問題点を見 出し、解決するた めの服薬指導や教 育を行う。	患者の問題点に対 する解決策に基づ き、患者が理解で きるように指導す る。 病態の変化に応じ た処方薬変更の説 明と継続的な指導 を実践する。	収集した患者や医 薬品に関する情報 に基づいて、資料を 用いて説明し、服薬 指導を行う。 代表的な疾患に関 する治療薬の効果 および副作用・特 に注意すべき事項等 について指導を実 践する。	コミュニケーション の基本的に基づいた 患者対応を行う。 服薬指導を行うた めに必要な患者情 報を収集する。
患者・薬局者 対応、情報提 供・教育	患者からの情 報収集、患者 への情報提供 及び教育を実 践する。	患者の問題点を見 出し、解決するた めの服薬指導や教 育を行う。	患者の理解度や状 態を含めた情報を 収集・評価し、適切 な服薬指導を行う。 指導記録を作成す る。	患者から薬物治療 に係る基本的な情 報(症状、既往歴、 アレルギー歴、薬 歴、副作用歴、生 活状況等)を正確に 収集し、記録する。 処方された医薬品 について用法用 量、薬効、副作用、 使用上の注意事項 などの基本的な情 報を提供し、記録す る。	患者から薬物治療 に係る基本的な情 報(症状、既往歴、 アレルギー歴、薬 歴、副作用歴、生 活状況等)を収集す る。処方された医薬 品について用法用 量、薬効、副作用、 使用上の注意事項 などの基本的な情 報を提供する。

【⑤医薬品の供給と管理】

		実施内容(例示)			概略評価表(例示)					
		大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SBOs959	1 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	◎								
SBOs960	2 前) 医薬品管理の流れを概説できる。	◎								
SBOs961	前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚せい剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。	◎								
SBOs962	4 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。	◎								
SBOs963	5 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。	◎								
SBOs964	6 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	◎								
SBOs965	7 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。	◎								
SBOs966	8 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。	◎								

・劇薬、毒薬、麻薬、抗精神病薬、覚醒剤原料、特定生物由来製品、放射性医薬品、院内製剤、薬局製剤、漢方製剤の具体的な商品などの実物もしくは写真を基に、管理の流れと法規制、保存条件などの品質管理上の問題点を議論し、要点を整理する。



【⑥安全管理】

		実施内容(例示)				概略評価表(例示)					
		大学 薬局 病院	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SBOs972	1	◎									
SBOs973	2	◎									
SBOs974	3	◎									
SBOs975	4	◎									
SBOs976	5	◎									
SBOs977	6	◎									
SBOs978	7	◎									



**(3) 薬物療法の実践**

GIO 患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

**【① 患者情報の把握】**

		実施内容(例示)				概略評価表(例示)							
		大学	薬局	病院	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SBOs986	1	◎											
SBOs987	2	◎			・「代表的な疾患」の事例に基づき、患者情報の情報源から、薬物療法の評価に必要な情報を収集する。 ・上記の事例を組み込んだシミュレーターもしくはシミュレーション教材を利用し、身体所見の観察とフィジカルアセスメントを行う。								
SBOs988	3	◎			・上記事例から得られた身体所見と患者情報源から得られた情報から、患者の現在の状況の評価する。								
SBOs989	4	◎											
SBOs990	5					・施設内で汎用される医療用語や略語を確認・理解する。		患者情報の把握	患者情報を適切に収集・評価・共有し、患者状態を正確に把握して、薬物療法に活かす。	把握した患者情報を、患者の環境、状態、必要性に応じて、医薬品の効果や副作用のモニタリングに活用し、継続的に収集・整理・把握し、薬物療法の評価に活かす。	他職種との情報共有の機会(回診、カンファランスなど)に積極的に参加し、情報の発信と共有により、患者情報の精度を高め、より多面的かつ正確に患者状態を把握する。	既存の患者情報から、必要性を的確に判断して、自ら医療面談や身体所見を得るための観察・測定等を実施し、全ての患者情報を収集・評価し、患者の状態を把握する。	患者情報の各種媒体(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、検査記録、お薬手帳など)から薬物治療に必要な情報を収集し、評価する。
SBOs991	6		◎	◎	・処方せん調剤、在宅医療、一般用医薬品販売などにおいて患者や薬局者個々の情報を的確に収集・整理し、薬物療法全般に活かす体験をする。 ・問診や得られる検査値等から患者の状態を把握し適切な薬物的管理を考察する。 <SBO952~958と連携>	・調剤、医薬品管理、病棟業務などにおいて医療に必要な情報を的確に収集し、薬学的管理、薬物治療に活用する。 ・病棟業務の一環として、診療録や病棟カンファレンス等を通じた医療スタッフとの情報共有から適切な患者情報の収集を体験する。 ・診療情報や患者の訴えを、副作用や薬効と関連づけて考察する。 <SBO952~958と連携>							
SBOs992	7			◎	患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)								
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示</div>								患者情報の把握 C		治療上の問題点を抽出・解析し、対応策を患者に提案する。	過去の記録、最新の医薬品情報と患者との面談から収集した情報を基に治療上の問題点を把握する。	収集した患者や医薬品に関する情報に基づいた服薬指導を行う。活用できた患者情報を他の薬剤師と共有する。	服薬指導を行うために必要な患者情報を収集する。収集した情報と服薬指導した内容を薬歴等に記入する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">日病薬評価基準を参照した病院実務実習評価例示</div>								患者情報の把握	患者情報の各種媒体を適切に確認・把握し、必要に応じて患者アセスメントを実施し、薬物治療に活かす。	薬物治療の評価に必要な情報を判断し、収集・整理することで、患者の状況を適切に把握し、薬物治療に活かす。	患者対応、他の医療従事者及び各種媒体から患者情報を収集し、評価する。	患者対応及び患者情報の各種媒体(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、検査値、お薬手帳など)から情報を収集する。  ※患者対応とは、(2)処方せんに基づく調剤④患者対応における患者からの情報収集に基づく情報	患者情報の各種媒体(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、検査値、お薬手帳など)から薬物治療に必要な情報源にアクセスする。

【②医薬品情報の収集と活用】(E3(1)参照)

実施内容(例示)					概略評価表(例示)					
	大学	薬局	病院		観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SBOs993	1	◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>薬物療法に必要な医薬品情報を収集するための情報源と得られる医薬品情報の特徴を振り返るために、医薬品とその対象疾患を指定し、主な三次資料、二次資料、一次資料を入手し、それぞれの情報源の違いを振り返る。</li> <li>学習した新医薬品について批判的な視点からの紹介文書を作成する。</li> </ul>						
SBOs994	2	◎	◎		<b>医薬品情報の収集と評価・活用</b> 薬物療法の評価等に必要な情報について、最も適切な情報源を効果的に利用し、情報を収集すると共に、得た情報及び情報源を批判的に評価し、効果的に活用する。	調査の目的に合わせて、最も適切な情報源を効果的に利用し、情報を収集する。得た情報及び情報源を批判的に評価し、活用する。不足する情報については、常に新たな情報を収集・整理し、エビデンスを創出するよう努力する。医薬品情報の取扱いや評価について、後進の指導を行う。	調査の目的に合わせて、一次資料(原著論文)も含めた適切な情報源を利用して調査を実践する。得た情報を量的、質的に評価し、提供する。患者啓発や医療の質向上に寄与する情報を主体的に作成・発信する意識を持つ。	調査の目的を明確にし、基本的な情報源に加え、複数の情報源を利用して調査を実践する。得た情報の評価を常に行い、情報提供者のニーズを踏まえて、患者や医療スタッフに提供する。	薬物療法の評価等に必要な基本的な情報源である医薬品添付文書、インタビューフォーム、診療ガイドラインなどを確認し、情報収集する。得た情報の評価を行う。	
SBOs995	3	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設での医薬品関連情報の情報源と収集方法を理解し、実際の患者、来局者、施設スタッフに適切な医薬品情報を作成して提供する。</li> <li>新薬や薬効別、後発品などの薬局で役に立つ医薬品情報をまとめる。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>施設での医薬品関連情報の情報源と収集方法を理解し、収集した情報を評価・加工して適切な情報を患者、医療スタッフ等に提供する。</li> <li>医薬品情報室や病棟での実習の中で、種々の情報源を用いて、院内外の問い合わせに適切に対応する。(医薬品情報室での実習は病棟実習に先行で行う。)</li> <li>&lt;SBO924、953~957、991、992実習時に並行して実施&gt;</li> </ul>
SBOs996	4		◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)</li> </ul>						
SBOs997	5	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)</li> </ul>						
SBOs998	6	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)</li> </ul>						
				<b>日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示</b>	<b>医薬品情報の収集と評価・活用</b> CD	治療上の問題点を抽出・解析し、対応策を患者に提案する。	過去の記録、最新の医薬品情報と患者との面談から収集した情報を基に治療上の問題点を把握する。	文書および患者からの情報を抽出し服薬指導に必要な情報への加工を実践する。	代表的な疾患の治療薬に関する情報(用法・用量、有効性、安全性、使用上の注意等)の収集と加工を実践する。	
				<b>日病薬評価基準を参照した病院実務実習評価例示</b>	<b>医薬品情報の収集と評価・活用</b>	薬物療法の評価に必要な情報について、最も適切な情報ソースを効果的に使用し、情報を収集すると共に、得た情報及び情報ソースを批判的に評価し、効果的に使用する。	一次資料を含めた情報を適切に評価し、目的に合わせて加工し、提供する。患者啓発や医療の質向上に寄与する情報を主体的に作成する。	調査の目的を明確にし、基本的な情報源に加え、複数の情報源を利用して調査を実践する。得た情報の評価を常に行い、情報を必要とする相手のニーズを踏まえて、患者や医療スタッフに提供する。	薬物療法の評価に必要な基本的な情報源である医薬品添付文書、インタビューフォームに加え、診療ガイドラインなどを確認し、情報収集し、取捨選択する。	薬物療法の評価に必要な基本的な情報源である医薬品添付文書、インタビューフォームを確認し、情報収集する。

【③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】

		実施内容(例示)				概略評価表(例示)						
		大学	薬局	病院	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階	
SBOs999	1 前)代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に 応じて科学的根拠に基づいた処方設計が できる。	◎										
SBOs1000	2 前)病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・ 授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の 選択や用法・用量設定を立案できる。	◎			・「代表的な疾患」の具体的な事例を題材と して、薬物療法を主体的に評価し、安全で 有効な医薬品の使用を推進するために薬 剤師が行うべき薬学的管理をPBLなどで学 習する。							
SBOs1001	3 前)患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒア ランスが良くない原因とその対処法を説明できる。	◎			・上記事例において、肝腎障害、妊婦授乳 婦、小児、高齢者などの事例を用意し、具 体的な処方提案を行う。 ・上記事例において、患者の栄養状態の評 価から、輸液栄養療法、電解質の過不足を 考慮した処方提案を行う。							
SBOs1002	4 前)皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴 等の基本的な手技を説明できる。	◎			・上記事例において、患者のアドヒアランス の不良による効果不足の事例を用意し、ア ドヒアランスの評価とその対処方法を提案 する。							
SBOs1003	5 前)代表的な輸液の種類と適応を説明できる。	◎			・皮下注射、筋肉注射、静脈内注射、点滴 注射などの基本的な手技を、シミュレータ ーなどを利用して学習する。							
SBOs1004	6 前)患者の栄養状態や体液量、電解質の過不 足などが評価できる。	◎										
SBOs1005	7 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、 科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。	◎	◎			薬物療法の問 題点の識別と 処方設計及び 問題解決	薬物療法の問 題点の評価に 基づき、問題 解決策を提 案、実践し、薬 物療法を個別 最適化する。	薬物療法や生活習 慣の問題点を重要 性や緊急性を考慮 して適切に識別し、 現状評価を正確に 行う。 当該ケースにおけ る最善の解決策を 見極め、提案する。 論理的で実行可能 な解決策を実行に 移し、その結果を評 価する。	薬物療法の問題点 を主体的に識別す る。問題点の現状 評価を明確に行 い、処方設計や他 の解決策について 検討し、論理的で 実行可能な解決策 を明示し、薬物療法 の個別最適化を実 践する。	常に、有効性、安全 性、経済性の観点 から問題点の識別 と現状評価を行う 努力をする。 処方設計を含めた 解決策について、 主体的に検討し、 当該ケースの薬物 療法の個別最適化 に努める。	薬物療法の有効 性、アドヒアランス 不良や腎機能低下 時の投与量などの 基本的な安全性の 問題点を識別し、現 状評価を行い、必 要な処方設計を行 う。	
SBOs1006	8 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基 づいた処方立案できる。		◎									
SBOs1007	9 患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機 能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等) や薬剤の特徴(作用機序や製剤的性質等)に基 づき、適切な処方を提案できる。(知識・態度)		◎	◎	<SBO920~924を基本とし、S BO952~957実習時に連携して 研修する。>(処方監査、服薬指導 時に同時に実施する。) ・「代表的な疾患」を有する患者の 薬物治療に継続的に関わり、処方 せんや薬歴、状態等の情報から、 患者の病態を推察し、より有効で安 全な薬物療法について考察する。 ・上記薬物治療の処方に適切でな いと思われる所があれば、最適な 薬物療法を考え指導者に提示し、 必要があれば処方医に提案する。 ・上記薬物治療において、アドヒア ランスに関する問題を発見し、収集 した情報を駆使して考察し、解決策 の提案を実践する。 ・上記薬物治療において、経済面 の問題を発見し、収集した情報を駆 使して考察し、適切な医薬品の選 択・提案を実践する。	<SBO920~924を基本とし、S BO952~957実習時に連携して 研修する。>(処方監査、服薬指導 時に同時に実施する。) ・「代表的な疾患」を有する入院患 者の薬物治療に継続的に関わり、 収集した患者、医薬品、薬物治療 法等に関する情報を駆使し、より有 効で安全な薬物治療のために問題 点を抽出し、解決策を考察して、処 方設計の提案、治療薬の変更・中 止の提案等を体験する。 ・上記薬物治療において、アドヒア ランスに関する問題を発見し、収集 した情報を駆使して考察し、解決策 の提案を実践する。 ・上記薬物治療において、経済面 の問題を発見し、収集した情報を駆 使して考察し、適切な医薬品の選 択・提案を実践する。						
SBOs1008	10 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコール やクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)		△	◎			※薬物療法の 問題点の評価 は、(3)①患者 情報の把握及 び②医薬品情 報の収集と活 用に基づく					
SBOs1009	11 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止 の提案ができる。(知識・態度)			◎								
SBOs1010	12 アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や 用法の工夫が提案できる。(知識・態度)		◎	◎								
SBOs1011	13 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮し て、適切な後発医薬品を選択できる。		◎	◎								
SBOs1012	14 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投 与方法、投与期間等について、医師や看護師 等に判りやすく説明できる。(知識・態度)		△	◎								

日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示

薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決D		処方医との治療薬物に関するモニタリング情報の共有や治療薬変更の提案を实践する。服薬指導した薬物治療に関する情報を分析し、他の薬剤師と共有できるように記録する。	薬物治療上の問題点を正確に抽出・解析し、問題点の対応策を提案する。	文書および患者からの情報を抽出し服薬指導に必要な情報への加工を实践する。	医薬品に関する文書情報と患者から収集した情報から、患者の治療上の問題点の有無を指摘する。
薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決	患者の薬物療法の問題点の評価に基づき問題解決を实践し、個別最適化する。  ※薬物療法の問題点の評価は、①患者情報の把握及び②医薬品情報の収集活用に基づく	論理的で実行可能な解決策を明示し、薬物療法の個別最適化を实践する。	薬剤師の提案により実施した薬物療法の結果を評価する。	薬物療法上の問題点について現状評価を行い、処方設計を行う。	薬物療法の有効性、アドヒアランスや腎機能低下時の投与量などの基本的な問題点を抽出する。

日病薬評価基準を参照した病院実務実習評価例示

【(4)処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】

実施内容(例示)					概略評価表(例示)						
大学	薬局	病院	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SBOs1013		◎	前)代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。								
SBOs1014		◎	前)代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)								
SBOs1015		◎	前)代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)								
SBOs1016		△ ◎	医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・技能)				薬物療法の効果と副作用モニタリング	様々なモニタリング項目から患者状態を適切に評価し、薬物療法の効果と副作用モニタリングを実践する。	薬物療法に関する経過モニタリングを基に患者の状況を総合的に評価して、処方設計や問題解決につなげ、薬物療法のPDCAサイクルを効果的に回し、薬物療法の質の向上に貢献する。	評価した患者の状態に応じ、処方設計や問題解決に必要な指標を継続的にモニタリングし、患者の状態を評価する。評価結果は、適切にカルテや薬歴などに記録する。	代表的な疾患を有する患者のケアに関わり、薬物療法の有効性、安全性を評価する指標を適切に指摘する。患者の状態をモニタリングするためのツールとして、臨床検査値の継続的な確認をする。
SBOs1017		◎	薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定を提案ができる。(知識・態度)			・「代表的な疾患」を有する患者を継続的に担当し、問診や医療機関から提供される情報(検査値等)等から、患者背景、病態、治療薬、治療法に関する情報等をもとに、薬物治療を考察し、その治療効果および副作用のモニターと評価を体験する。 ・TDMの実際を体験する。 ・「代表的な疾患」を有する入院患者の薬物治療に複数の病棟で継続的に関わり、収集した情報等から、より有効で安全な薬物治療の提案を体験する。 (必要に応じて、病棟だけでなく、入院センターなどの院内施設を利用して実習を行ってもよい。) <SBO953~956, 991, 992, 1005~1012の実習時に並行して実施する。>					
SBOs1018		◎	薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)								
SBOs1019		△ ◎	臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。								
SBOs1020		◎ ◎	薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。								
SBOs1021		◎ ◎	副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。								
SBOs1022		◎	薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)								
SBOs1023		◎ ◎	報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)								
SBOs1024		◎ ◎	患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)								
SBOs1025		◎	医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)								

日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示

薬物療法の効果と副作用モニタリング D		効果不十分や副作用発現時の対応を適切に実践する。	薬物治療の効果等に関して継続的な管理を適切に実践する。	代表的な疾患に関して、処方内容が適当かどうか、エビデンスに基づいて評価する。	収集した情報の薬物療法への活用を試行する。
------------------------	--	--------------------------	-----------------------------	--	-----------------------

日病薬評価基準を参照した病院実務実習評価例示

有効性モニタリングと副作用モニタリング	薬物療法の経過の観察や結果の確認を実践する。	薬物治療に関する経過をモニタリングし、患者の状況を総合的に判断して、処方設計や問題解決につなげる。	評価した患者の状態に応じ、処方設計や問題解決につなげる。有効性が不十分な場合や、副作用を確認した場合には、対策を検討する。	患者との面談や臨床検査値等の継続的なモニタリングを実践し、患者の状態を適切に評価し、その結果を適切に記録する。	薬物療法の有効性、安全性及び副作用を評価する指標を選択する。
---------------------	------------------------	---	---	---	--------------------------------

日本薬剤師会が設定した各STEPにおけるパフォーマンスレベル

	目標	STEP4	STEP3	STEP2	STEP1	該当する 連絡会議「評価の観点」	該当する 改訂コアカリ項目
A （医薬品の調製）	製より本格的な管理ができる	アドヒアランスを考慮し、新たに収集した患者情報や薬歴等を参照して医薬品の調製ができている。また、薬局で使用されるすべての医薬品やその他のアイテムを適切な手順で記録し、保管できている。	複雑な処方箋であっても再現性よく、スムーズかつ正確な調製ができている。個々の患者の病状や状態を確認し、調剤上の工夫を提案できている。また、薬局で使用されるすべての医薬品を適切な手順で記録し、保管できている。	一般的な計数・計量調剤や調剤上の工夫等の対応ができている。また、医薬品の性質を理解し、薬局の管理手順に従い供給・管理ができている。	基本的な処方箋の計数・計量調剤ができている。また、医薬品の供給について薬局内の基本的な医薬品の在庫管理ができている。	処方せんに基づく医薬品の調製  医薬品の供給と管理	(2) 処方せんに基づく調剤 ③ 処方せんに基づく医薬品の調製  (2) 処方せんに基づく調剤 ⑤ 医薬品の供給と管理
B （処方監査・医療安全）	たし医療上で患者安全の観点から状態を評価し	患者の病状の経過・生活環境・ナラティブを考慮しながら、処方の方当性を判断できている。必要に応じて、医療安全の見地からより適切な処方設計の提案ができている。	収集した患者情報（面談・薬歴・お薬手帳等）から得られた情報と薬学的知見を統合して処方内容の監査ができている。必要に応じて、自らの判断で多職種に情報提供ができている。インシデント事例発生後の対応について考察できている。	基本的な医薬品情報および患者情報に基づいて、すべての処方箋と調剤薬に関して適切な監査ができ、必要に応じて疑義照会が実践できている。またインシデント事例に基づいた防止策の提案ができている。	実習施設内の医療安全管理指針等に基づき、単純な処方箋について記載上の不備を指摘し、疑義照会すべき内容とその手順を把握し指導薬剤師の助言に基づいて実践できている。	処方監査と疑義照会  安全管理	(2) 処方せんに基づく調剤 ② 処方せんと疑義照会  (2) 処方せんに基づく調剤 ⑥ 安全管理
C （服薬指導）	た個々の患者が服薬の視点をた	個々の患者の身体状況や生活環境等、情報収集した内容を分析し、その結果から指導に必要な事項を導き出し、その患者に最適な服薬指導を行える。さらに収集した情報を検討して薬歴に記録し、薬物療法に活用できている。	過去の記録、最新の医薬品情報および患者との面談から得た情報を基に指導に必要な項目を抽出・分析し、服薬指導時に活用できている。	患者と面談し収集した情報やさまざまな情報源から必要な項目を抽出でき、さらに服薬指導時に活用できている。その結果を適切に記録できている。	コミュニケーションの基本に基づき、患者から薬物治療に係る基本的な情報を収集し、薬物治療に係る基本情報を患者に提供できている。	患者・薬局者対応、情報提供・教育  患者情報の把握  医薬品情報の収集と評価・活用	(2) 処方せんに基づく調剤 ④ 患者・薬局者対応、服薬指導、患者教育  (3) 薬物療法の実践 ① 患者情報の把握  (3) 薬物療法の実践 ② 医薬品情報の収集と活用
D （処方設計と薬物療法）	薬が治療の経過に応じた対応	薬物治療に関する経過モニタリングを基に患者の状況を総合的に判断して適切な対応ができ、より治療効果の高い処方提案ができている。	薬歴や服薬指導を通して、薬物療法の効果を評価し問題点（副作用など）を発見・抽出し、対応策の提案を実践できている。また、それらの内容を他の薬剤師と共有するための記録が適切に実施できている。	収集した患者情報および処方内容から薬物療法に係る基本的情報の加工ができ、医薬品情報や治療ガイドラインを参考にして、基本的な処方内容と実際の処方内容から病態を確認できている。	薬物療法の有効性、服薬状況などの基本的な安全性の問題点を認識し、一連の問題点を整理できている。	医薬品情報の収集と評価・活用  薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決  薬物療法の効果と副作用モニタリング	(3) 薬物療法の実践 ② 医薬品情報の収集と活用  (3) 薬物療法の実践 ③ 処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）  (3) 薬物療法の実践 ④ 処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）

このパフォーマンスレベル表は、薬学実務実習連絡会議にて、同会議が示した「薬学実務実習の評価の観点（例示）」別添「概略評価表（例示）」との整合が確認されています。